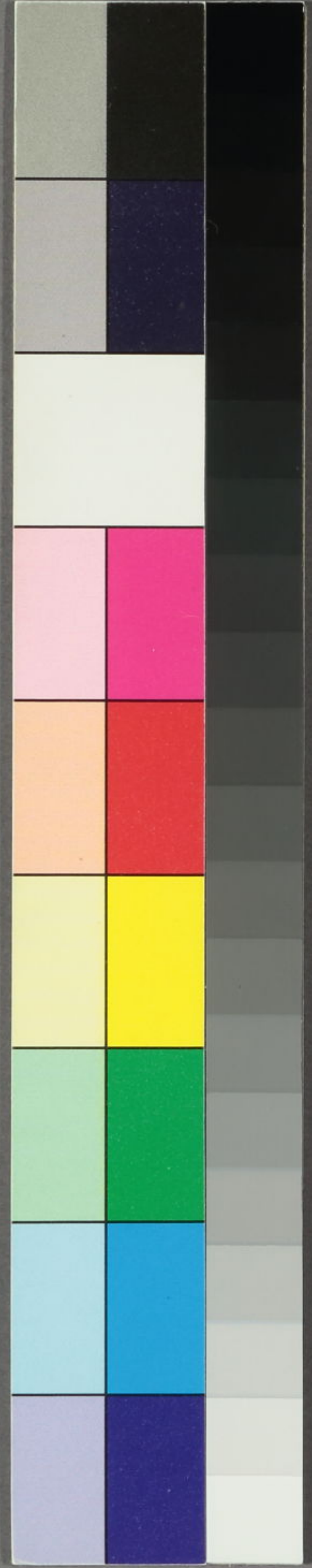


改正
繪入

南都名所記

大寺長石所舊跡古寺
 春日社 惣社 尊内
 東大寺 寺社 寺
 二月堂 觀世音 圓縁内
 大佛殿 蓮立 縁起内
 興福寺 伽藍 蓮立内

特別
 元 3
 3617
 98



奈良八景



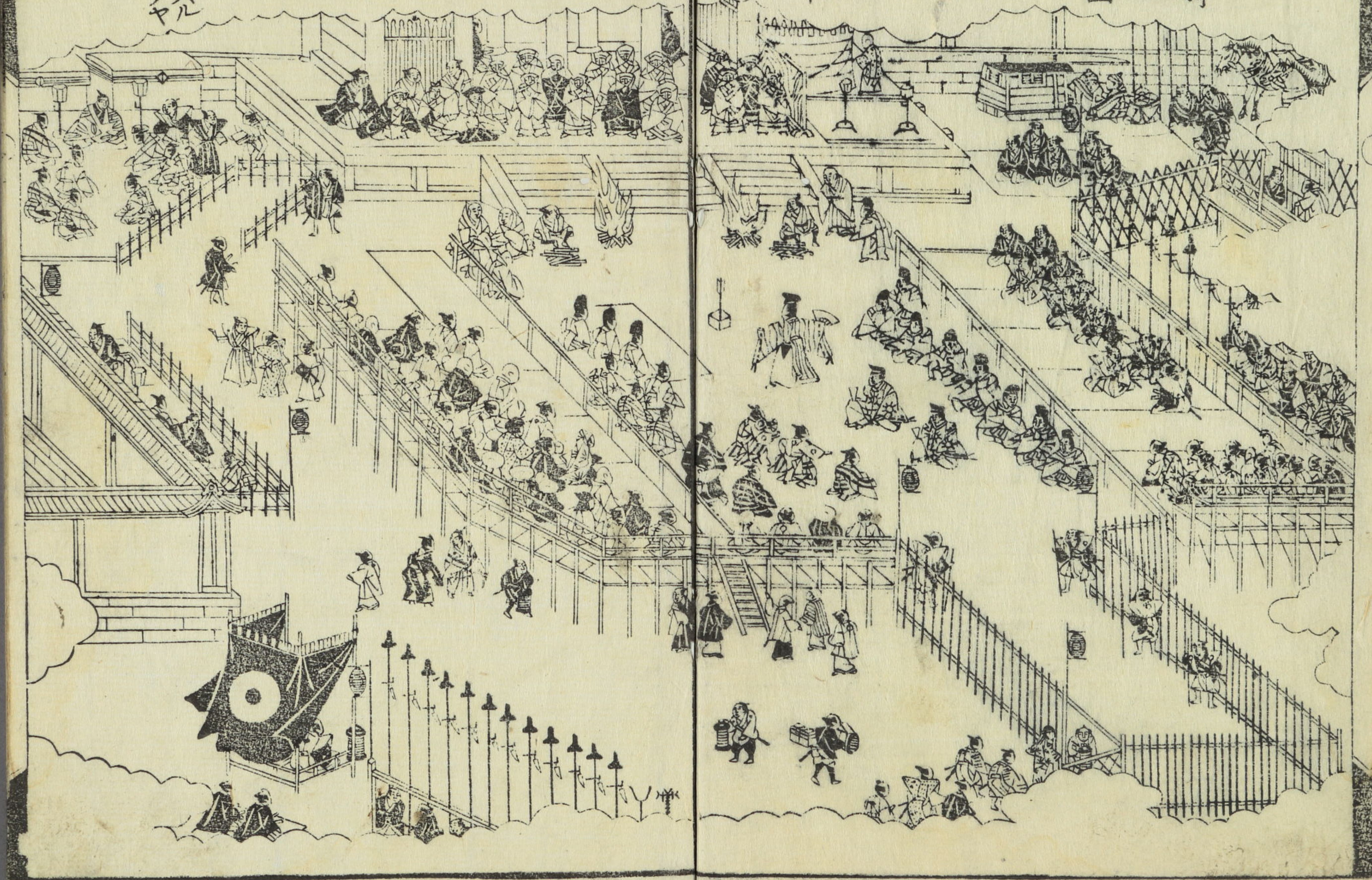
▲南都猿沢の池。春日明神の湧かぎみの池なり。天の帝よ
 はなまらうと縁せといふと入。表とらうみまのせは池とく
 ひましくなる。天皇とあわれぬがひもけをうけ津業ありて
 人々に傳せぬ。池の池もいふはたもごうををがくまをいふは
 ▲米女宮。いひの西のこにあり ▲夜掛軒。こひあまをあげ一時
 夜とらひ一軒なり。池の東にあり。いふは池の池の柳やまもこが
 縁せれがそのおまをるん ▲浅香山。池より東。成身院の
 うる松のせもふとふいおといふうらうらうらうらうらうらうら
 あまのい人をぬりぬらぬ ▲楊貴妃様。こんがんと。いふ人真後
 寺に云々といふ傳のてうあひ一東さううらうらうらうらうら
 ▲南大門。二王あひひ前。毎年二月七日より十日を。新羅堂
 役者おはす。天下泰平。國土安全の圖。清和天皇の

新 館 圖

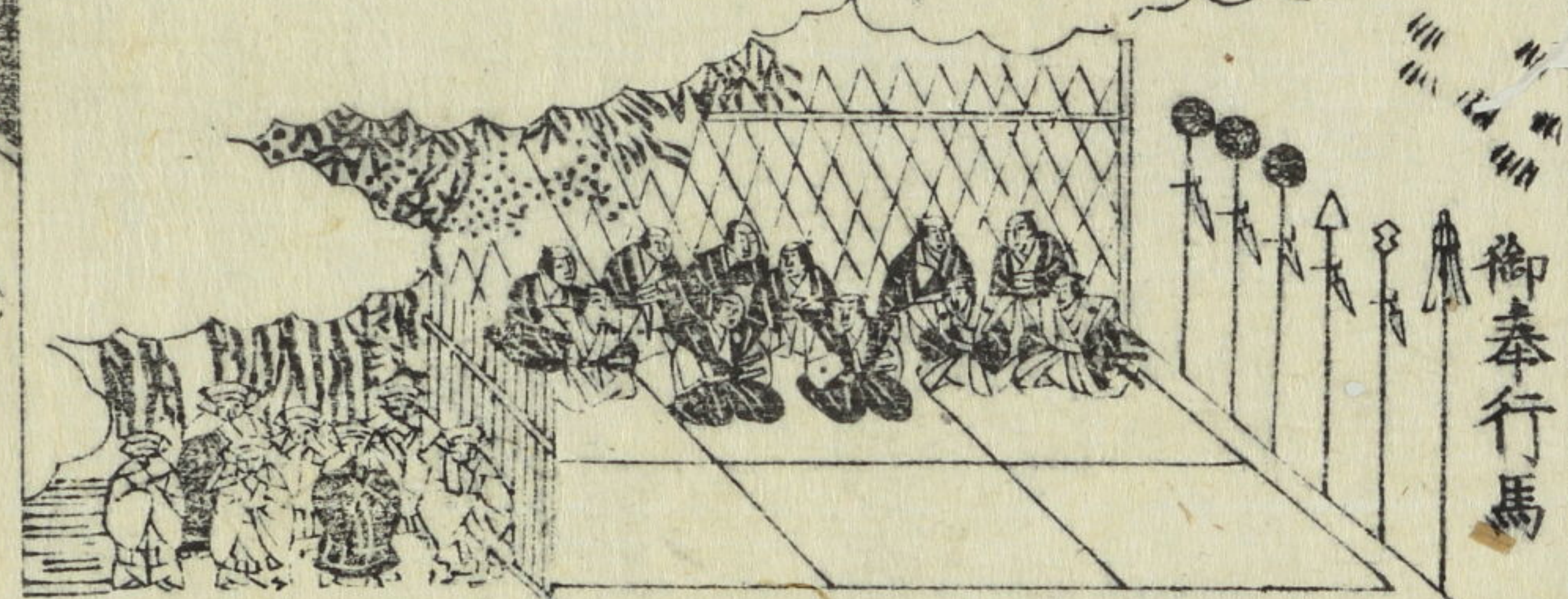
南 都 興

福 寺 南 大 門

ガ
ク
ヤ
ル
コ
ニ
ハ
ル



御奉行



御奉行馬



仕丁赤衣教人



春日
若宮
御祭禮

戸上公人



柏手公人



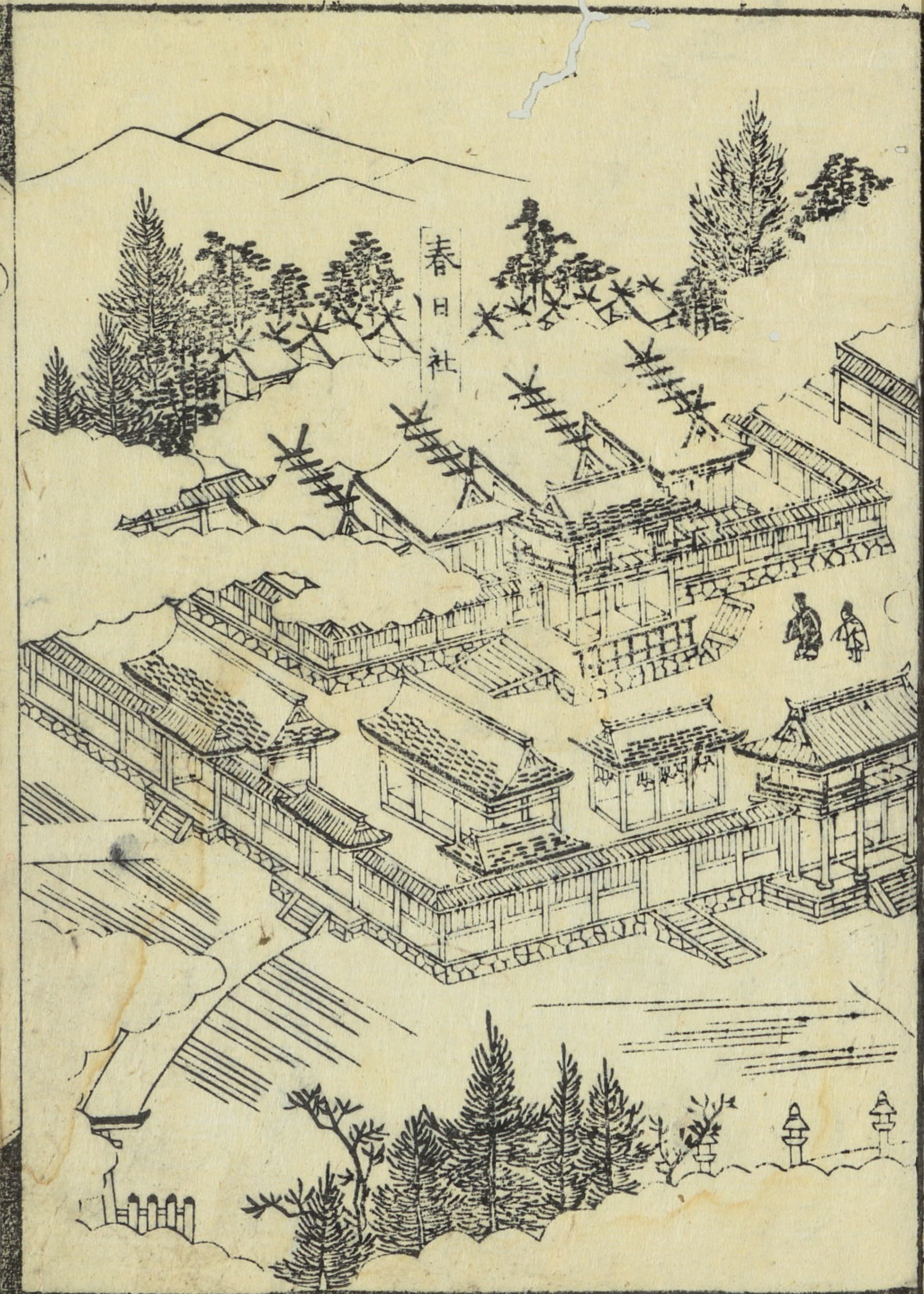
小泉家中
高取家中
伊賀家中
郡山家中



是西
大名馬

日使





神代卷 靈験ありては、やうにほくし、
 乙未年。安永三年と云ふ十七年、
 出火一町又多く、
 卯神堂のにおの方へ、
 の西原も其へ、
 七つり考あて、
 まひ傍のうま、
 と云ふ。
 公方様、
 一。
 申す。

りて、
 申す。



志保寺の坊舎と本堂

大佛つり子



二月堂

らぶん松

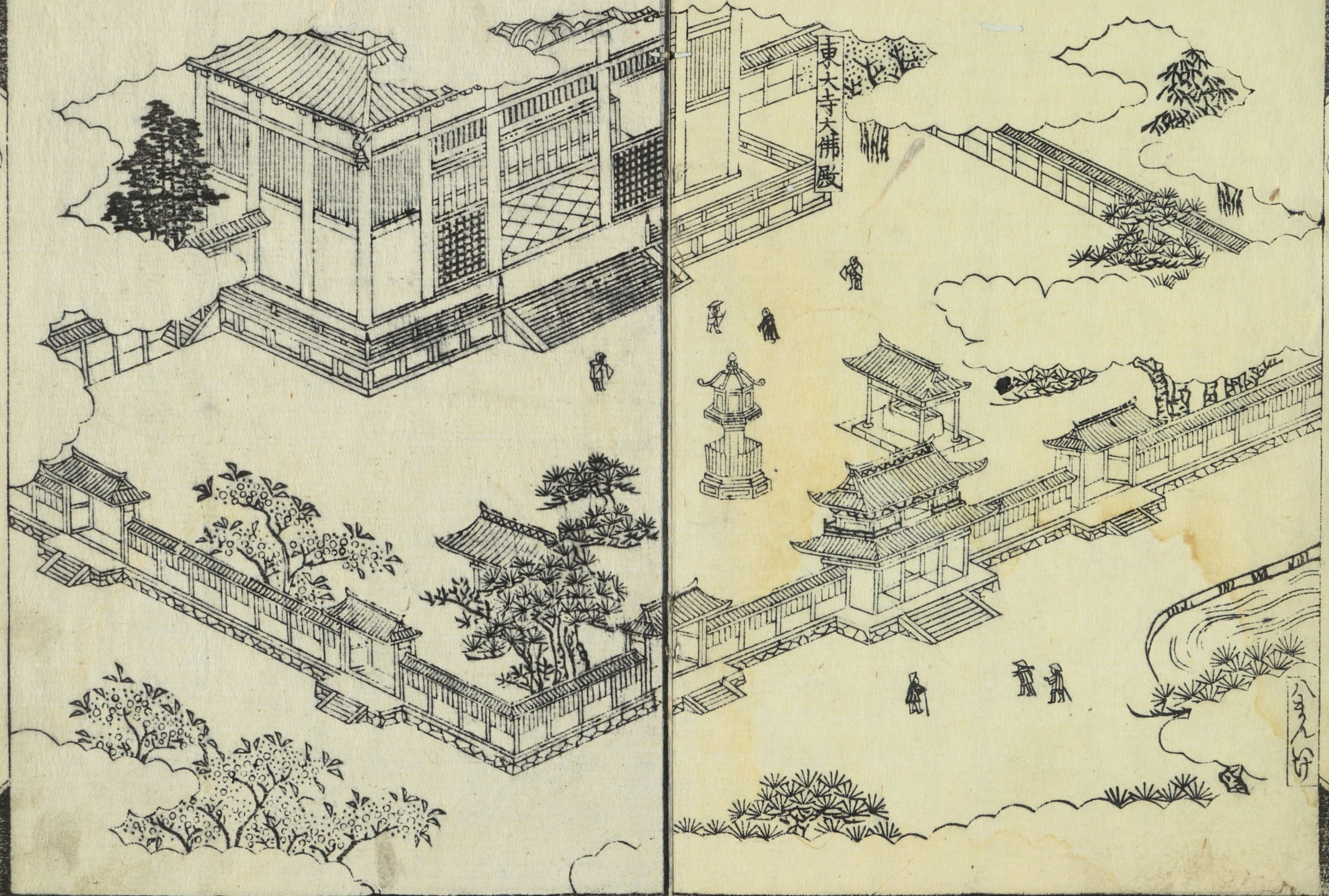
志保寺

八丈文社

初めけ堂

ろのびんじりてくびくびくして西遊してついでに社をたてた又その御珠
とわらわす。大仏殿にさしあがらせりてはしとて巧匠ののりて一
こころ又百人のむかひにびくびく。おのころもかまひてはしとて
ごんじりて一のりてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
明神とわらわす。今にまじりてはしとてはしとてはしとてはしとて
ちうてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
縁づくてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
ぎびくびくせしむしてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
格好のまはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
船ののりてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
あふ縁記加毗羅衛とてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
日夏山のまはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて

天保後宮に毎日九月大仏のあはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
心の事の海降先皇等つとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
二百人はあはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
四十人その他はしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
元年分安永二年と五十六年になる。于時治承四年十月九日平乃
を備とあはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
むらばせり後白河の法皇大仏殿をめぐりてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
らんばらしてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
多ふらん。天保二年四月十九日平乃
海降の海降はしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
あはるはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて
元年八月廿七日はしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとてはしとて



東大寺大佛殿

三聖殿

全圖

六百五十石八斗余に経匠中にある春日の中より六十年めには
 とうきりとうきり式万石のりる▲のきりきりきりきりきりきり
 中前をうらうきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 へあてのきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 りはきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 びんきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 しつてのきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 天平七年にけいせんおきりきりきりきりきりきりきりきり
 傍舎とある大のめんも大士のめんもきりきりきりきりきり
 の石きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ▲えんきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ろりあふ今いんまの塔とてきりきりきりきりきりきりきり
 六町四方のがらんち今いんまきりきりきりきりきりきり
 史新業師寺ハ聖武天皇勅額よりなりきりきりきりきりきり
 昔阿耨耨業師と号して秘佛は長三人余の業師いんまきり
 聖徳太子の御代にて美人合のきりきりきりきりきりきり
 聖宿眼殿と憲させあひて玉懸せりきりきりきりきりきり
 新のりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 師丈六の前後と遠ききりきりきりきりきりきりきりきり
 あひて新業師寺と勅額とト一あふ別靈繪目これ新のりきり
 故よけきののきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 あふ龜瀧をりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 まけきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

▲佐保山眉間寺 又叢山八皇平入代聖氏天皇帝乃佐保山
 所引階傳於の園表たり天皇東大寺大弘教傳事内所引佐保山
 の皇地たるは亦公藤系の居宮の傳為る勅詔ありて佐保と造
 業一平堂寺の河跡陀如來の別帝傳遺文右業師九於如來のく
 行表并傳別之初の眺令寺と号は傳小皇帝此山は傳事遠
 見宜かり故眺望寺と勅額賜之給は長寛年中村上天皇御宇
 傳廟の亦文化人現く眉間より宛めと教事時斗有て化に其
 臨は舍利式粒ありは由速は奏因又及び帝奇物の事感
 感ありて眉間教免の瑞相と眉間寺と勅額と賜ふ聖文
 皇帝の詔音の化文かりとつるふ歳の皇をおと給とらども
 聖徳不持かり也國は凶事ありんかあは傳陵あり
 ぞ明教に定は行基菩薩傳羅門傍心良辨傳心次

のどく 文殊菩薩 彌勒 井の愛 傳して四聖 同結出世
 傳はく 洪妻 實はまの 崇一 事なり 子殿て
 八百年來 建物多 寶塔 就喜堂 寺あり 又六百
 年 如來の 縁は 神授の 聖山 なるは 傳本 縁起 圖

ざぐそく
 ざぐけ
 海人ぢき
 ぐちあま
 右の 糸
 寶曆四年戊午
 萬延二年酉正月吉日改
 南都大佛西門前
 繪圖屋庄八版

寫博大神之乃在焉
法法大解所之生焉
行也本以法攝入空境焉
相列何象等事焉
大石門因相事焉
大相石相切有大佛事焉
日西空寺行事焉
日空寺行事焉
日西空寺行事焉

大石門因相事焉
日西空寺行事焉
日空寺行事焉
日西空寺行事焉
大相石相切有大佛事焉
日西空寺行事焉
日空寺行事焉
日西空寺行事焉
大相石相切有大佛事焉
日西空寺行事焉
日空寺行事焉
日西空寺行事焉